

『○○』というネーミング （家況ライイ付）

決まるまでのすたもんだとあとから気づいたんだかんた

結局はえらい簡単で「なんやこれ」みたいな名前にならんやけど、まあ生まれてみれば忘れてしまいそうでも、ほんまは、すごく難産でした。

思い起こせば4年前に、「とりくむ会10周年の集い」をやったときに、名前のことが話題になりました。生活の場のことば、まだ夢をもちよるという段階で、具体的には考えられていなかったんですが、そもそも「鶴山台『障害児・者』問題にとりくむ会」というのがどうもダサイんちゃうか、ということからはじまったんです。中年太りというか、もとからというか、そんな会員の面々に「とりくむ」っていうのは似合ってるで、というひやかしは、この際おくとしても、この10年、自分たちがやってきたこと、やろうとしてきたこととこの会の名前はどうもずれてるなっていう気分は、みんなにあったんだと思います。そのとき、結（ゆい）とか結び（おむすび）の会なんてどうやという話もできました。もちのふに一つ一つのモチ米がつぶれて一つにまとまってしまうのでなく、米の一粒一粒はちゃんと立っていて、しかもそれらがしっかりとつながりあっている、なんてことをいつてたのを覚えています。

でも、結局はそのままで、第1ラウンドは終わります。第2ラウンドは、とりくむ会で、来たるべき時に備えて、みんながエイッと目をつぶって一軒の家を購入した時です。暮の「おもちつきとバギーの集い」で、この家の名前を考えて下さって一般募集なんかもして、今日は決めようとみんなが、ある晩集まりました。

現在ある共同作業所や生活の場の名前を書き出してみても、ロクにあんまりええのんないなアとか、も一つやなアとか悪口いいながらも、いざ着るとなると、なかなかいいアイデアも名前もでてきません。でもそのうち興がのってきて、いっぱい名前をホワイトボードに書き並べて、あーでもない、こーでもないといひあつたり、へんなあて字の漢字を考えて大突いになつたりで、えらくもり上がったのが印象に残っています。夜も寝て、午前3時ごろだったか、「あー面白かったに、あー、疲れた」といひあって、第2ラウンドもこれで終了。ホマ何やってんのか。